政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2014年９月24日～10月６日） 稲葉 延雄：株式会社リコー取締役専務執行役員、リコー経済社会研究所長

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1-1	現在の経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(6月下旬から7月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。		どちらでもない。景気の現状は横ばい圏内の動き。７～９月期で消費税増税の影響は払しょくされて、景気は持ち直しに転ずるとみていたが、その動きが後づれしている。 しかし、基本的に企業収益の好調さは維持されており、それが設備投資増、賃金増に結びついていくという循環は途切れていない。また雇用環境も引き続き改善傾向にあり、それが家計の安心感につながっている。従って個人消費も、冬の賞与、来春の賃上げ等で実質賃金の改善が進むにつれて復調してくるものと思われる。 ただし、輸出は円安下でも弱い動きが続いており、構造的な変化ととらえるべきであろう。
1-2	今後の経済のリスク要因（第1回時点と比較して変化がある場合）、あるいは将来への新たな期待要因について、300字以内でご記入ください。	－	日銀短観の結果をみると、一段と進んだ円安の結果、大企業製造業にはプラス、その他の中堅・中小製造業、非製造業にはマイナスの影響が出ているようであり、行き過ぎた円高とともに行き過ぎた円安も日本経済全体として必ずしも好ましくない、という点で、今後注視が必要である。 海外経済については、前月から大きな変化はない。米国の量的緩和政策終了、来年の利上げの展望がより明確になってきており、また先行きの世界経済についても3％程度の成長との見方は崩れていない。ただし、米国株価は相場天井感からボラティリティが高まっており、つれて日本の株価も乱高下しているので要注意である。
経済再生と両立する財政健全化			
2	財政健全化に向け、歳出削減等を始めとして様々な取組が考えられますが、具体的取組内容についてのお考えを300字以内でご記入ください。	－	来年の消費税率１０％への引き上げは、財政再建の道筋を確かなものにするために必要であると考えるが、それだけで財政再建が実現するわけではない。問題は時間をかけた取り組みの実効性をどう担保するか、ということである。 まず大事なことは、将来の歳出削減や税収に関して、保守的な前提の下でも、事態が着実に好転していく道筋を金融市場にはっきり見せることである。 さらに、その将来の道筋に向けた取り組みについても、与野党間の合意などにより、その実効性を裏打ちしていくことが是非必要である。

政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2014年９月24日～10月６日） 稲葉 延雄：株式会社リコー取締役専務執行役員、リコー経済社会研究所長

質問事項		選択式回答	記述式回答
女性の働き方に中立的な税制・社会保障制度等の在り方			
３－１	どのように女性の働き方に中立的な社会制度を実現していくべきとお考えか、その理由とともに300字以内でご記入ください。	－	税制や社会保障制度の各論を巡っては様々な論点がありうる。 しかし、性(ジェンダー)の違いにより、また配偶者であるかどうか、などにより税・社会保障の扱いが異なるというのは、これからの日本社会の在り方を考えると基本的に望ましいとはいえない。 それらの扱いを変更することによって生ずる所得配分上の不具合については、別の給付形式によって緩和すればよい。
３－２	女性の働き方に中立的な制度を論じるに当たって、その背景にある事項（女性が働くことへの人々の意識や職場慣行、男性の働き方、子育て支援等の環境整備、家族のあり方等）について、特に言及すべきことがありましたら300字以内でご記入ください。	－	コメントせず。